

『高校クラス担任の基本とQ & A』をご購入いただきありがとうございます。

このデータは、ページの都合で本書に載せきれなかった回答を紹介するためのものです。

本書の回答が自分には合わなかったり、もっと様々な意見や考えが知りたかったりする場合に参考にしてみてください。

- ・事例(悩み)の内容は省略しています。お手元の本をご覧ください。
- ・ダウンロードデータでは、回答者の元の表記をなるべくそのまま載せています。

第3章

保護者関係の悩み

高校ホームルーム経営研究会著「高校クラス担任の基本とQ&A」(学事出版株式会社)
掲載外の回答集

【事例 41】

★初めて担任を持つことになったと説明して、保護者の皆様のご協力を仰ぐことが重要です。そして、担任としての抱負や、ご自身が考えている教育方針等を伝えます。それに対して、保護者の方々からご意見をいただくことも必要です。保護者会に出席する保護者は協力的な方が多いと思いますので、生徒の教育を、保護者と担任が協力しながら進めて行くことを伝えましょう。

★保護者に話すことを盛り込んだ、保護者版の号外ホームルーム通信を用意しましょう。そこに、「自分はこんな先生です」といった内容も盛り込んではいかがですか？自己紹介・「こんな先生」になりたい像・当初の行事予定・お願いしたいこと等に、必要な連絡を入れておけば、言い忘れの心配ありません。その上で、保護者の「はじめての高校生活で心配なこと」について話し合ってもらうのはいかがですか？即答する必要はありません。お返事は、後日のHR通信でご連絡します、で良いのです。保護者同士の人間関係が深まることは、必ず生徒にプラスになります。

★保護者会で何をすればよいのか私も手探りで楽しんでいます。保護者会の「正解」はありません。①何のためにその時期に設定されているか②自分が保護者だとして何を知りたいのか③時間を作り、学校に来校した保護者が喜んでくれそうなこと等を取り入れてみてはいかが？学級委員さん、学級通信などを通して保護者から知りたいことなどを募集してみても面白いかもしれません。他クラスを偵察しいいところ取りして引き出し増やしていきましょう。

★学年担任で共通して伝えるべき内容（内規の重要なポイントである、特別指導になるケースや進級の条件）を念押しする意味での確認を行い、それ以外は、保護者がまた来たいと思うホームルームにするため、必要な話は要点を述べて短くし、アイスブレイキングゲームを行い保護者同士が打ち解けた後、日頃の子育ての苦労と対応方法を互いに相談する場を設けます。また、子供自慢話などもします。そうすると、帰宅後、家族で保護者会の話題ができるので、保護者がいい意味で学校に関心持ちます。そのためには、日頃よりPTAのイベントがあれば参加し、交流することをお勧めします。

高校ホームルーム経営研究会著「高校クラス担任の基本とQ&A」(学事出版株式会社)
掲載外の回答集

【事例 42】

★5月以降、2学期半ばまでの①生徒の様子（学習面と生活面）を伝えます。②保護者会に参加して良かったと思える資料（お土産）を用意します。例えば、生徒一人一人の個人カードを作って、生徒の様子（学習面と生活面）を記入して渡す方法もあります。③保護者の意見や要望を聞きます。保護者の発言をもとに保護者同士で話し合ってもらいと、相互理解に役立ちます。

★保護者の方にお伝えしたいことはありますか？家庭と学校は、同じ方向を向いて生徒の後押しをしていかなければなりません。協力関係を築くための情報共有の場にできるとよいですね。保護者が一番知りたいのは、「うちの子は学校生活を楽しんでいるかどうか」です。授業や行事での生徒の様子を担当が具体的に、そして楽しそうに語れば、とてもよく伝わると経験的に感じています。また保護者同士の情報交換の場としても有効です。

★「何のために」行われるのか考えているところが素晴らしいですね。大の大人が仕事を休んで、大勢が集まるわけだから「目的」が必要です。辞書で引いてみると「子供の成長について保護者と担任が協議する会」（デジタル大辞泉）とするならば、①担任が伝えたい学級の様子②担任が知りたい家庭での様子③保護者が悩んだり困ったりしていることの共有ができるような活動を工夫してはいかが？ネットや書籍で先輩たちのアイデアを拝借してみるのもおすすめです。

【事例 43】

★「合理的配慮」の意味を取り違えていますね。この意味を正しく理解してもらうために、スクールカウンセラーと保護者をつなぎましょう。担任としては、中学校と高校では違うこと、この学校としての成績の出し方があることなどを、学年主任、場合によっては管理職に同席してもらって保護者に説明します。医療機関から診断書を出してもらい、学校生活を継続できるのか、という基本的なところから確認していくことも大切です。

★正直に言いますね。私なら、配慮しちゃいます。まずは、中学とは異なる高等学校の成績のつけ方をご理解いただいた上で、「学校に通えないという障害」のために、どんな配慮（欠席を医師の指示とする、授業の補講等）を希望するのかをお尋ねします。「他の生徒と同じように評価してほしい」ばかりでは、厳しい評価が下されることにもなりかねません。配慮の結果、推薦選抜を受けて合格できれば幸いです。一般推薦は高校の推薦と違って落ちる場合もあることはお伝えします。もちろん、生徒の不利になる情報は大学側には伝えません。進路選択が、保護者が生徒の課題と正面から向き合うチャンスになってほしいですね。

★「合理的配慮」をする上で大切なのは、学校と本人と家庭での共通理解。どうしても学校の方針と違ったら「教育支援委員会」などの助言などを受けながら冷静に話していくのはいかがでしょうか。保護者が子供に何とかしてあげたい気持ちが暴走気味になるのはよくあること。言い返さなくていいです。まずは欠席がなぜ続くのか明らかにしましょう。ちなみに評価は各教科で説明責任が果たせるよう準備しておきましょう。一番大事なことは、なぜ学校に通えないのかの原因を早めに見つけ、対処することです。

★生徒が学校に通えない状況では、管理職に連絡の上、複数の教員で家庭訪問をするなど、直接、保護者や本人と顔を合わせて根気よく話をしましょう。その上で、どうしても学校に通えない場合には、学校に通わなくてよい学校を紹介しても良いかと思います。場合によっては、学校の内規を確認し、学校のルールに照らし合わせて、他の生徒と不平等にならないように、担任団や管理職とも相談し、校長判断がいる内容かもしれません。もし、我を通す保護者であれば、高校は中学校までと違い、義務教育ではないことと、通常の学校では越えてはいけない欠席時数や日数があることを伝え、仮に長期入院した場合や、長期海外留学の場合も、単位が取れなければ留年となりますので、その辺りの説明がいります。

★保護者の意見はよくわかったのですが、実際のところ生徒本人がどう考えているのか、とても気になりました。まずは学校での3者面談か、難しい場合は家庭訪問の可否を学年主任と相談し、保護者と一緒に生徒の気持ちを聞いてみてはいかがでしょうか。中堅校では自分の意見をストレートに言葉にするのが苦手な子も多いです。じっくり本人の考えを聞く機会をまずは作ってみて、関係性を構築するところから始めてみてください。

【事例 44】

★担任としては、強制や高圧的な態度をとった覚えがないことを伝えます。そして、保護者と生徒に来校してもらい、学年主任同席の上、事情を聴くことが重要です。生徒にも同席してもらい、生徒の口から意見を述べてもらいます。その際、保護者が生徒の言葉を遮るようなことがあれば、指摘して、生徒の発言を続けさせます。学校に行きたくない理由を、生徒自身に語らせることが重要です。

★わあ、私によく来る苦情です。とにかく、管理職には報告しておきます。本人には直接、教師の言動があなたを傷つけることになったことを誠心誠意謝ります。いじめも体罰も相手がそう感じればそれは事実です。言い訳とか事情説明は逆効果です。その上で音楽祭の印象を聞いたりして、担任以外で相談できる人を見つけられると良いですね。保護者とも、直接お会いして話を聞けると良いのですが…その場合は、複数の教師で対応します。保護者は本人の代弁者かもしれませんし、「学校に行きたくない」というわが子の対応に一番戸惑っているのは保護者かもしれませんよ。

★問題を抱えた生徒の中には、保護者の前では自身の都合の悪い話は伏せ、嘘をつく子がいます。保護者の立場からすると、自分の子供は嘘をつかないと信じていますが、子供にとっては、都合が悪いことについて親を利用すればよいと考えていることが多いです。このようなケースでは、親子関係が健全でない場合にそのようなことが起こりやすいです。対応としては、保護者や生徒と直接面談をすると、分かることが多いです。その時は、生徒の日頃の状況を記録し保護者との面談の中でお話をします。もし、長期の視点に立って指導していくのであれば、親子関係を少しでも修復できる話をホームルームや1対1のときにしていき、生徒との信頼関係を少しずつ築く努力が必要です。会話は、電話で対応するより、面と向かってお話をした方が解決すると思います。また、そのような生徒の行動記録は、日付と時間も記録し、残してください。家庭との連携を大事にするため、問題行動がある時期は、家庭との連絡を密にしてください。家庭の協力が生徒の問題行動を減らすことに繋がります。どのような生徒でも見捨てない態度で根気よく臨んでください。その誠意は生徒と保護者にいずれ伝わります。

★まず心配なのは、その生徒は思っているよりも繊細で、悪気ない言動で本当に傷つけてしまった可能性があることです。心を閉ざした相手から本当のことを聞くのは難しいので、他の先生にそれとなく「最近遅刻多いみたいだけど何か困ったことでもあるの？」と聞いてもらうのも一つの手だと思います。そこで本当になにも無いようであれば、面談を通して遅刻が増えた本当の理由を生徒に聞いてみてください。保護者と話すのはそこからです。

【事例 45】

★まず、日本語が理解できる生徒に、担任が母親に伝えたいことを丁寧に説明します。そして、その伝えたい内容を、母親が理解できるよう翻訳してもらいます。それを聞いた母親の意見も聞きます。三者面談を行い、生徒及び母親に、担任の意向をきちんと伝えて、そのうえで、生徒及び母親の意見にも耳を傾けてください。少し時間はかかると思いますが、確実な方法だと思います。

★生徒に不利益にならないためにはどうすればよいか、という視点が必要だと思います。保護者が抱えている問題があるのなら、もしくは支援が届いていないのなら、学校以外の福祉的な支援を紹介する必要があるでしょう。全てを学校で対応するのは不可能ですので、社会との連携を築いてはいかがでしょうか。本人の自我が確立してきたことによる反抗もあるかもしれません。担任は生徒の意見や不満を、丁寧に聞いてあげましょう。

★現在、海外にルーツを持つ生徒が多いクラスを受け持っています。日本語が通じない方に対しては、その子供に通訳してもらいます。とくに、面談においては、子供通訳を介すので、やり取りに時間がかかります。書類提出に関しては、生徒に保護者と一緒に記入するようにお願いしています。生徒を何とかしたいという思いがあり、連絡ややり取りを続けることが、信頼を構築する上で、重要だと思います。誠意は万国共通だと思っています。子供の将来や進路について、向き合う姿勢を続けることが、大事になると思います。子供が進路について何とかしたいという思いが芽生えれば、保護者も学校に来てくれると思います。また、私はそのような家庭には、管理職の許可をいただき、なるべく家庭訪問に伺います。直接、担任の人となり見てもらうことは担任の姿勢を伝える上で重要なことです。何とかするには、動くしかないと思います。連絡が取れなかった保護者も家庭訪問後は、よく連絡が取れるようになりました。保護者は日本語が話せないことを心配していたようでした。

★1人の担任が抱えるには難しい問題で、まずは管理職や周囲の先生にもサポートを要請するのが大事です。そのうえで、例えばテクノロジーの力を活用するのはどうでしょうか。保護者面談を設定して、Web 翻訳の画面を一緒に見ながら会話をするのはそんなに難しくないかもしれません。そこで、改めていつもうまく伝わらない内容や、生徒を応援したいという思いが伝わると、その後の指導も少しはスムーズになるのではないのでしょうか。

【事例 46】

★目の前の生徒に向き合いましょう！生徒の現状を保護者にお知らせするのは大切ですが、こちらの言う通りに受け止めて、協力してくれるかどうかはわかりません。ダメでも生徒の日常生活は続きます。この生徒が少しでも相手の気持ちを考えられるよう、暴力的な振る舞いに及ばないように、繰り返し指導しましょう。少しでも変われたら、それが成長です。かかわる先生方にも協力をお願いして、息の長い指導を心掛けましょう。

★私が勤務する学校にはスクールカウンセラーの他に、年 5 回教師がコンサルテーションを受けられる精神科医との面談があります。事例を報告し、対応についてご指導いただきますが、管理職も養護教諭もカウンセラーも同席するので大切な情報共有の場となります。私なら、まずは、その場を利用して今後の方針を検討します。暴力を伴うこと、保護者のかたくな姿勢等は、担任一人で解決できるものとは思えません。

★うちの学校にはスクールカウンセラーの他に、年 5 回教師がコンサルテーションを受けられる精神科医との面談があります。事例を報告し、対応をご教示いただきますが、管理職も養護教諭もカウンセラーも同席するので大切な情報共有の場となります。私なら、まずは、その場を利用して今後の方針を検討します。暴力を伴うこと、保護者のかたくな姿勢等は、担任一人で解決できるものとは思えません。

★暴力的ということは、他者に迷惑をかけているということなので、生徒本人とよく話をする機会を作った方が良くと思います。自分が相手の立場であったときにどう思うかなど、対人関係の作り方やより良い付き合い方を考えていく訓練が必要です。その中で、その生徒の適正を見抜いて、クラス役員など、皆が認めるような役を与えると良いと思います。時間がかかるとは思いますが、グループワークなど本人が少人数で会話に参加できる機会を増やし、社会性を育てましょう。また、保護者が協力的でないのは、学校からその子の文句しか聞こえないことで、学校の先生は子供を嫌っている敵のように感じているかもしれません。担任の姿勢としては、その子が将来、生き方で困らないように願っている気持ちで、保護者と接すると、状況が変わってくるかもしれません。例えば、その生徒の良い所や行動を保護者にお話しした上で、少しだけ、改善点を伝えるのがよいです。

★「トラブルになってしまうことが多く、困っていない？」と寄り添う形で話を聞きつつ、トラブルの原因として想像される「自分の普通」と「他の人の普通」が異なることを確認してみるのはどうでしょう。いわゆる常識を押し付けるのではなく、あくまでも「違い」があることを認識してもらう形です。そこから本人が助けを求めるようになれば、保護者も理解を示してくれるのではないのでしょうか。

【事例 47】

★生徒自身の気持ちに寄り添うことが最優先ですね。この生徒のことを考えて、学校としてできる支援をしましょう。本人が学校に来るのが嫌になってしまうのであれば、解決方法を一緒に考えてあげたり、日常の不満を聞いてあげたりするだけでいいのです。家庭では自分に注目が集まらないのであれば、学校や教室に居場所を作ってあげてはいかがでしょうか。学校での活躍を保護者に電話できるようになるといいですね。

★特別扱いではなく、この生徒にあった対応があるはずです。生徒一人での解決が難しいことは家庭の力が必要ですが、実際には親とのコミュニケーションがうまくいかない生徒はたくさんいます。もう高校2年生ですから、自立のスタートラインと捉えさせ、生徒が自分でできることを一緒に考えてあげましょう。それでもなお、解決できない時は、改めて保護者に連絡を取り、心配な点を伝えて協力を依頼してみましょう。

★この生徒のために何ができるか考えたときに彼女の安心できる場所を作ることが必要です。高校生はみなが順調に完全な自立をしているわけではなく、思春期ならではの迷いや葛藤をもって過ごしていることを母親に伝えてはいかがでしょうか。弟の受験のためだけでなく、弁当を自分で作ることが将来の自身のためになることを理由をつけて話をしてもらうなど保護者の側ではなく、心の内を話してくれた彼女の側に立って関わってみましょう。

★まずは、生徒の辛さを共感することだと思います。そんな状況だったら、「それでも前向きに頑張ろう！」とはならないでしょうし、朝学校に来るのが遅れてしまうのも仕方ないと思います。共感したうえで、特別扱いはできないことをきちんと生徒に伝えましょう。そして、前向きになれるようにどんな手助けをしてほしいか、生徒に聞いてみてください。大切なのは生徒が自分で頑張ると決め、それをサポートする形に持っていくことです。

【事例 48】

★まず、生徒と話し合ってください。高校生なら、高校生としてふさわしい行動ができるようにならないといけないことを理解させます。母親の協力を得ることが難しいようですので、生徒の自主性を育てることに力をいれましょう。担任としては、生徒ととことん話し合ってください。生徒自身の人生をしっかりと考えさせることによって、行動の変容を期待しましょう。保護者には「校内で検討します」と答えて、後日「一人だけ特別待遇するわけにいきません」と回答します。

★高校卒業後の進路について本人と担任で話して、本人の希望を聞いてみましょう。その上で、今必要な学習に焦点を当て、何をやらなければならないかを計画させましょう。最初は担任と二者面談の中で、目標を達成するための具体的な課題・学習を確認させてみてはいかがでしょうか。今は学習時間を記録するアプリや手帳があります。自分が学習した達成感を得させ、それを保護者に見せて、進捗を確認してもらうのはいかがでしょうか。

★私は…成績不振の場合は保護者と三者面談する必要があると事前に生徒に周知します。抑止力になりますよ。三者面談にこだわるのは、言われた聞いてないの行き違いを防ぐためと、親子で考えるきっかけにしたいからです。このケースの場合は、保護者の要望を生徒に伝えて、どうするかを一緒に考えてはいかがでしょうか？

★小学校の頃は、スマホという楽しいアイテムがなかったので仕方なく宿題をしていただけだということをお伝えしましょう。本当に成績の振るわない教科で、3日から1週間だけ毎日宿題出してあげればよいのですよ。未提出は逐一伝えて、代わりに再提出をさせるために家でやったのか毎日欠かさず保護者に確認して末尾にコメントをお願いする。宿題をしないのはスマホの利用を制限できない生活にあることに気付かせるのはいかがでしょうか

★家庭でスマホを触り続けるのは、家庭での使用ルールが決まっていないときに多いです。そこは、学校が直接介入できない部分ですが、家庭ルールを作ることを保護者に勧めたことがあります。夜の8時以降には、リビングルームにスマホを置くルールを作ったようです。また、成績不振の生徒のスマホ契約解除をする家庭もありましたが、そこは家庭での教育責任であると思います。生徒本人の立場からすると、成績不振により、勉強の苦手意識が高くなり、やる気を失っている状況が想定できます。生徒になるべく早く面談を開き、苦手とする教科の先生と勉強法を相談させる方が良いと思います。放置して時間が経てば、生徒はスマホ依存症になりかねません。けじめをつけてスマホを触ることが大事であることと、家庭の協力無しにこの状況は改善しないことを保護者とも直接会ってお話した方が良いでしょう。

【事例 49】

★過保護・過干渉の保護者には、「受験するのは生徒本人です。進学して学ぶのも生徒本人です。生徒の希望をしっかり受け止めてあげてください。そのうえで、母親には必要なサポートをしてあげてください」と伝えます。生徒本人と二者面談を行い、生徒自身の希望を確認した上で、三者面談を行います。そして、母親と一緒に生徒の口から生徒の気持ちを聞きます。

★母親とおとなしい息子にありがちですね。かつて、こういう保護者対策として「面談事前アンケート」を活用しました。話し合いたい話題を保護者に記入していただき、いくつかの項目には「★マークはお子さんに答えてもらいます」とするのです。これだけはどうしても保護者に伝えたい内容は、どの時期にもあると思います。先回りしすぎる親の場合、子どもも伝えるのをあきらめている場合があります。そんな場合にもおすすめです。

★進路相談あるあるですね。「お母さん、よくお調べになりましたね。すごい！」と感心しちゃいます。個人的には、あまり心配はしていません。保護者が理解して全て対応できるほどに、昨今の受験対策は単純ではありません。まずは本人の成長です。彼が具体的な未来予想図を描けるようになって、そこに向かう上級学校が決まり、受験方法が決まり、今何をすべきかが分かって実践できれば、母親はわが子の成長を頼もしく思うことでしょう。進路選択こそは、生徒が最も成長できる機会と、私は捉えています。

★感情のままに言いたいときに言う傾向のお母さんに悪気はないのだと思います。きっと息子さんもその勢いに押されてタイミングを計っているうちに自分の話より相手の話を聞く姿勢が身について大人しくなったのかもしれませんがね。でも、主体的に進路研究を進めてるってことは「自分の意見」をもっているはず。「彼の」大事な進路ですから一旦話を聞きましょうとたしなめてみたら？担任は生徒の味方になってあげてください。それでも難しいときは面談ではなくお手紙に。

【事例 50】

★カンニングの疑いがあったとのことですが、真実の解明は難しいかもしれません。しかし、この生徒が将来、今と同じように周囲の人々から誤解を受けるような行動を続けるなら、社会生活を送るうえでマイナスになると予想されます。つまり、生徒の将来を考えて、今、改めるべきことを保護者と一緒に考えて対策を講じたいと説明して、保護者の協力を得るよう担任として保護者に働きかけてください。

★本人・保護者には、今回のカンニングのことだけを丁寧に話した方がいいですね。これまでの行為や、日常の生活の様子を含めて指導をしてしまうと焦点がぼけてしまいます。そして、担任や学校への不信感が大きくなならないうちに、「私は」あなたのことを心配しているのだ、という「I(アイ)メッセージ」で伝えます。また、保護者と話をするときは、学校で、複数の教員（時に管理職）が立ち会える時間帯を設定しましょう。

★単語テストぐらい（失礼）でそこまで頑なになるのは、何か理由があるのでしょうか。保護者とのこじれた関係を気にするよりも、この女の子がなぜカンニングというリスクを冒してまで点数にこだわるのか考えてみましょう。保護者には現物のコピーなど明確な証拠を採取して迫ることもできますが、ここでは、どうやってカンニングの事実を本人に認めさせるかではなく、どうやってこの生徒にカンニングをさせないかを考えてみてはいかがでしょうか。

★保護者とのこじれた関係を修復することよりも、大切なのは、本人がカンニングをしなくて良い状況を作ってあげることだと感じます。本人の様子から、カンニング自体が悪いことだという認識は十分持っているでしょう。カンニングを通して本人が達成したかったことは何なのか想像してみてください。もしかしたら、母親に怒られないための手段なのかもしれません。別な手段をいくつか提示し、様子を見てみましょう。